

肝寿会勉強会 2016年4月23日

「肝硬変のトータルマネジメント」

田尻和人

肝臓病は症状が出にくく、気付かぬうちに肝硬変へと進行します。黄疸・腹水などの肝不全症状が出現して初めて気づかれることもあります。患者さんも肝硬変に対して正しい知識を持つことが重要です。肝硬変は肝臓だけでなく、全身の様々な異常を引き起こす病態であり、その管理には慎重な対応が必要となります。しかし肝硬変の最大の原因疾患である肝炎ウイルス治療がここ最近飛躍的に進歩していることもあり、肝機能が保持されているうちに病院を受診できれば、病気を治癒できる可能性もあります。肝硬変自体の診断・治療も進歩がみられてきています。慢性肝疾患といわれた方、肝硬変といわれた方は定期的に医療機関を受診いただき、担当の先生とよく相談し、肝予備能を良好に保つよう心掛けましょう。